

全医労保育所ニュース

(株)キッズコーポレーションを厳しく追及

全医労は株式会社キッズコーポレーションとの団体交渉を 2 度に渡り実施、確認書を締結しました。

7 月 10 日第 2 回目の交渉を実施

7 月 10 日の交渉は佐藤委員長以下 15 名、キッズは経営管理部長以下 2 名と 2 人の弁護士が参加しました。

冒頭、全医労の要求に対してキッズ経営管理部長からの回答がありましたが、年休時限措置の誤った説明については一定の改善があったものの、その他の要求については実質ゼロ回答でした。

これを受け、全医労側は各園の代表をはじめ、参加者から現場の実態も含め、厳しく追及しました。

賃金について、「経験給は契約社員では 1 年ごとに 1,000 円、パート職員は 500 円アップすること、ピジョン時の現給保障するための特別地域手当は賃金が上がっても下げることには無い」と確認しました。賞与についても、キッズは「他の受託園では 10 万、20 万という出し方しかしていないが国立園については、冬は総額の 1.0 月支給する」と回答しました。

賃金については「ピジョン時の現給保障といいながら、実際は労働時間増やみなし残業代もあるため実質下がっている」「賞与もピジョン時より下がること、夏の賞与分がないと年収は下がる」ことなどを訴え、引き続き賃金引き上げのための協議をしていくことを確認しました。



「キッズは誠意をもって応えよ」8 月 9 日キッズ交渉

カレンダー、事情のある園は個別対応

カレンダーについては、参加者から「開園の実態と合っていないため、子どもがいない日の出勤や必要のない 1 日 8 時間以上の勤務をせざるを得ない、体力的にもきつく安全な保育に不安を感じる」など混乱している職場の実態を訴えました。全医労は変形労働時間制には反対だが、当面は早急にカレンダーを実態に合ったものにせよと追及しました。キッズは「すべての園の実態に合わせたカレンダーにはできないが、事情がある場合は個別対応していく」と回答しました。

また、他園へのヘルプ・異動については、「過配置を理由に行うことはない。あくまでもお願いベース。本人合意のもとであり強要はしない。これに従わないことで不利益を被ることはない」と確認しました。さらに保育基準を満たすためのヘルプの受け入れについても、各園、病院としっかり話をしたうえで進めることも確認しました。

キッズ側は交渉時間が過ぎたことに固執し、交渉を打ち切ろうと立ち上がりましたが、全医労はこれまでの確認だけはせよと、交渉における確認内容に基づき、確認書（案）を読み上げ締結を求めました。しかし、キッズ側はさらに交渉時間に固執したため、全医労はキッズが賃金、カレンダーの変更等引き続き協議していくと約束したこと等を重視し、確認書締結と積み残しの議題について早急に再度団体交渉を実施することを約束し、交渉を終了しました。

8月9日再交渉を実施。現給保障を行え

8月9日の再交渉は、佐藤委員長以下13名、キッズは経営管理部長以下2名、弁護士1名が参加。前回交渉で確認書が締結できなかった理由を追及しました。

キッズは『『賃金・労働条件はピジョン時を下回らないようにする』が締結できない。労働条件は幅広く、変形労働時間制などもあり合意はできなかった』と回答しました。

全医労は全ての労働条件が下回らないようにという要求だが、変形労働時間制のことは、確認書に別途「協議していく」と入っているため、「賃金は下回らないように」での締結を迫りました。しかし、キッズは「月額賃金を下回らないようになら、病院とも月額賃金の現給保障と約束している」と回答したため、交渉は紛糾。

現場からも「現給保障、月額とは聞いていない。今になって月額とはどういうことか。後出しじゃんけんだ。私たちは生活がかかっている。今まで我慢してきた。他の園もそうだが組合がないから言えないのだ。キッズは姿勢を変えよ」「みんな辞めると言っていたが、施設側もピジョンより契約金上げる、年収も下げないと言ったから残った。約束してもらわないと帰れない。納得いかない」「前回交渉で確認した内容とは違う。容認しがたい」と厳しく追及。「月例給だけという発言を

撤回せよ」と迫りました。

それに対しキッズは「協議していきたい、今すぐにできませんと申し上げられない」などと回答。全医労がこのような対応は不誠実だと厳しく追及し、キッズは「月例給保障」の不当な発言を撤回。初年度賞与については引き続き協議していくことを双方で確認しました。

連絡体制については、「書類がたくさん送られてくるが何の説明もなく、打刻システムも現場は大変だった。APに来てくれと言っても2~3週間かかった。答えも遅い。なぜ?と聞くとあなたたちが早く来いと言わなかったからと言われた。何とかしてほしい。わからない中で保育しないといけない、命を預かっているのにわからないままでは困る」との発言がありました。全医労は他の園でも連絡がつかない、返事が来ない、病院も困っている等の声が上がっている。安全・安心の保育に支障が出る。APの指導も含め、連絡体制を整えよと追及しました。キッズは「APも園のサポートに入る、その上で至らない点はフィードバックして改善していく」と回答しました。

確認書を締結。引き続き協議していく

全医労が確認書内容を読み上げ、双方何度も確認の結果合意し、後日押印して交わすことを約束しました。

確認書締結後、勤務実態とカレンダーに矛盾があり、保育や労働に支障をきたしている問題をはじめ、早期の改善が求められている議題についても引き続き協議していくことを確認し、交渉を終えました。



「現場職員の声をきちんと受け止めよ」